



今から約 50 年前日本は高度経済成長の真っ只中にありましたが、その傍らで大きな社会的な歪も生じていました。工業が盛んになるにつれて環境汚染が深刻となり水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息などの公害病が社会問題となっておりました。その頃作家の有吉佐和子さんが「複合汚染」を執筆され、世の中の環境問題について一大提起をされました。その著書の中で有吉さんは食品添加物や農薬の害についても書かれておりますが、有吉さんが特に力を入れて書かれたのは梁瀬義亮医師のお話しでした。梁瀬先生は奈良県五條市で開業されておりましたが田舎でもあり農業に従事している方も多数来院されました。その頃農業従事者の間に奇妙な訴えをする患者が相次ぎました。口内炎がひどくて不眠や神経障害を訴え、肝臓が腫れて肝炎症状のある方が多数来られました。話を聞きますと皆一様に「パラチオン」という農薬を連日のように散布しており、梁瀬先生はこれはきっと慢性的な農薬中毒に違いないと考えました。そこで先生は自身の家庭菜園の野菜にこの「パラチオン」を散布し、影響が消えたであろう数日後その野菜を青汁にして食べてみる実験をされました。すると食べ始めてしばらくすると体調不良となり、不眠から怒りっぽくなり、放心状態となって診療できなくなり実験を中止しました。そしてこの自身の経験を踏まえて五條市の農村部に農薬中毒が蔓延していると世に発表されました。今までそんな事を言った人はいなかった為、梁瀬先生は世間から狂人扱いされ様々な誹謗中傷を受けましたが梁瀬先生に賛同する人も徐々に増え、やがて 50 人程度の人が集まり「健康を守る会」という会が発足しました。そしてこの「健康を守る会」は「慈光会」というものに発展し、そこでは何件かの協力農家が無農薬の有機野菜を提供し会員の市民が購入するシステムが出来上がりました。更には慈光会では 5 ヘクタールに及ぶ山林を購入しそこを皆で開墾して直営農場とし、更には五條市内に健康食品販売所を建設し無農薬の有機野菜や無添加の健康食品を市民に販売するというふうに進んでいきました。20 歳を過ぎた頃私は有吉さんの「複合汚染」を読んでこの梁瀬先生の生き方に感銘を受け、慈光会を見学に行きました。そしてあるお寺の大広間で梁瀬先生が化学肥料と農薬を使わない有機農業について仲間と語られるのを何度かお聞きしました。私自身実家が農家であり当時は化学肥料と農薬を用いた農業を行っておりましたが、この頃から化学肥料と農薬を使わない有機農業を実践してみたいと考えるようになり、自分なりに研究し何とか有機野菜を作れるようになり現在に至っております。そして今から何十年も前に医師でありながら診療の傍ら農薬の害を世に訴え、無農薬有機農業の道を開拓し世の中に広めていった梁瀬義亮という方がこの世におられたという事をこれからも自分の心の支えとし生きていきたいと思っております。 院長 西村 章

当院では各種カード払いで診察代のお支払いを行っていただけます。なおマイナ保険証も診察券とともに毎月 1 回の提出が必要となります。提出がない場合は自費となります。

編集後記

避妊去勢しただけの野良猫が増えていますか？
地域の猫好きを人間を頼り押し付けてないですか？
あげくに世話をしている方が非難されるのですか？
謎は深まるばかりです

「わかりづらいことをわかりやすく表現する」ことは難しく「わかりやすく話すこと」のほうが実はテクニックがいるものでか？必要とされることではなしでしょうか。略語や日本語と外国語が入り混じったような難しい単語で更に混乱させるのではなく当院では「わかりやすい言葉」を選び「わかってもらえる説明」を職員全員が心がけております。しかしながら診察が混みあって場合やお電話ではお伝えしにくい説明もございますので来院し診察を受けていただくことをお勧めしております。また長時間のお電話でのお問合せはご遠慮いただきたく存じます。待合室での携帯電話のご利用もお控えください。